

Next 100 *years*

TCMは創立111周年記念事業の一環として、今春、中目黒・代官山エリアに新キャンパスを開校しました。本学では次の100年に向けて、音楽文化の新たな地平を切り拓くべく、ビジョンを策定し、教育改革を進めていきます。

音楽文化の幅広い研究と数々の業績で知られ、今年から本学教授に就任した渡辺裕氏が、音楽大学のあるべき姿やこれからの音楽教育について、鈴木勝利理事長と対談しました。また、音楽界で活躍する卒業生や在校生と、彼らを指導する教授陣が登場し、在学中の思い出や現在の心境などについても、師弟で語り合いました。

次の100年に向けて

教授 渡辺 裕

2019年4月より、本学音楽学部「音楽教育専攻^{*1}」、
大学院音楽研究科修士課程「音楽教育専攻^{*2}」博士後期
課程の教授に就任。
東京大学美学藝術学専攻卒業、同博士課程単位取得退
学。元東京大学教授。

*1、*2は2020年度より専攻名を変更します。(P15)



理事長 鈴木 勝利

しました。これは当時としては画期的なことで、このコースから、今を代表するテレビや映画、CM界のリーダーを多数輩出しています。

渡辺 先進的な取り組みですよね。私も最初はクラシックの作品研究をしていたのですが、クラシックだけを特別視する価値観に疑問をもち、音楽自体よりも制度的なものや西洋文化との関わりを研究してきました。そうしていくうちに、「音と音樂は切り離せない」と感じて、いろんな音の文化、たとえば音楽喫茶や駅の発車音など、研究対象が徐々に広がっていったんです。

鈴木 先生の言われる「音楽も音のひとつ」という考え方非常に重要です。先生には、そうした音楽文化の広がりを、ぜひ本学にもち込んでいただきたいと思います。

演奏家以外にも多様な進路に対応できる体制を強化

鈴木 本学は音楽大学ですが、3割以上の学生が卒業後の進路として教員や一般企業を目指します。途中で進路変更をしてもいいように、サポート体制を整えています。

渡辺 最初から分野を限定せずに、社会との関わりや多様性のなかで力を発揮できるような能力を伸ばしていきたいですね。

鈴木 本学では、次の100年に向けて新しいビジョンを掲げました。2年前には音楽と英語による教養を総

30年前に作曲「映画・放送音楽コース」を設立
多方面で優秀な人材を輩出

渡辺 まず頭に浮かぶのは、映画や放送関連のコースがあることです。クラシックだけでなく、そういう分野にも早くから力を入れてきたのだな、という印象です。

鈴木 作曲のなかに「映画・放送音楽コース」を立ち上げたのは30年前です。世界中の音大がクラシック至

合的に学べる「ミュージック・リベラルアーツ専攻」を開設。今年は「吹奏楽アカデミー専攻」を開設します。さらに、音楽と一ツ技術を融合した教育も準備中です。

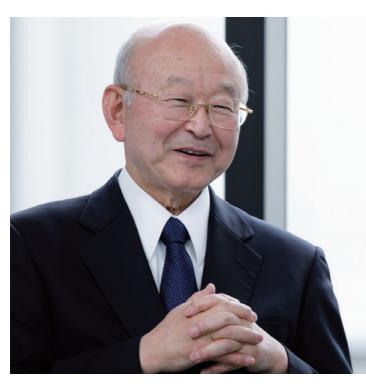
渡辺 街にあふれる音と生活との関わりや影響などについて、さまざまな専門家が共同研究を行えるような場があるといいですね。

鈴木 音楽研究も充実させる方針です。先生には、分野を超えた多角的な研究の中核として、知的な面で学生を指導してくださることを期待しています。

渡辺 この新キャンパスはおしゃれな代官山と、クリエイティブでなく庶民的な中目黒という異なる街並みのなかにあり、学生に大変いい影響を与えてそうですね。

鈴木 はい、そこに一ツ技術を活用した科目を組み込み、総合大学と比べても遜色のない教育を整え、学生が卒業後の進路を自由に選べる体制を整えていきます。

渡辺 ここから「音と音楽の総合大学」を目指したいですね。





学長
野島 稔 教授

岡田　M.L.Aでは2年目以降に英語で教養科目の授業を受けるため、
お互い助け合いながらも
刺激し合える関係が魅力

岡田 最近の研究で、音楽と言語を司る脳の部分が近いという話を聞きました。音楽と言語の両方を学ぶことで、日常生活的な効果が期待できるから有意義です。

「MLAのようにさまざまな
価値観の人たちが刺激し合うと、
人間の幅も広がります」(野島学長)



ミュージック・リベラルアーツ専攻 1年 宮下 まゆきさん

浜松学芸高等学校卒業。6歳でピアノをはじめ、11歳の時に渡米。数々の国際的なピアノコンクールに入賞し、帰国後、東京音楽大学、MLA専攻に入学。2018年、第17回東京音楽大学コンクールで第1位を受賞。

お互い助け合いながらも
刺激し合える関係が魅力

岡田 M-LAでは2年目以降に英語で教養科目の授業を受けるため、語彙の先生1人に生徒4人で学ぶチュートリアル・イングリッシュも、知らない表現をグループ会話で実際に

1年生の間に英語の基礎を徹底的に勉強します。早稲田や上智など他大学のメンソッドを取り入れたり、英語を母語とする講師を招いたりしていますが、実際に入学してみてどうでしたか？



ミュージック・リベラルアーツ専攻
アカデミック・アドバイザー
岡田 敦子 教授



学長×指導教員×学生 ミュージック・リベラルアーツ の魅力

ミュージック・リベラルアーツ専攻は、TCM気鋭の専攻です。
英語、教養を学ぶことをとおして、音楽のみならず人間的な成長も見込めます。
その魅力をうかがいました

MLAなら日本にいながら
英語の表現力も身につく

宮下 それは実技のレッスンでの的確な指導を受け、これでいいんだという確信と自信をもつて弾けるようになつたからだと思います。

岡田 MLAだと英語の課題が多くて、実技との両立は大変ではないですか？

宮下 いいえ、時間が限られている分、かえつて集中できていいくつづります。切り替えがうまくなり、逆に効率がよくなりました。

り、オーケストラとのコンチェルトやソロリサイタルをさせていただいたりと、日本ではできない経験をたくさんしました。

岡田 アメリカの大学に興味があつたのですね？

宮下 はい。国際的でありたかったし、英語も忘れないでいたいと思いました。アメリカでは、ラジオのインタビュー、コンサートでのトークなどを経験し、語学力の大切さを実感していましたので、日本の音大という選択肢はありませんでした。でもMLAのことを知つて、海外に行かなくて

岡田 宮下さんはミュージック・リベラルアーツ(MLA)専攻の1年生で、昨年の東京音楽大学コンクールピアノ部門で1位を受賞しました。野島学長とお会いするのは秋の授賞式以来かしら?

野島 私はあなたの演奏を聴いてバランスがよく、力みがなくて自然な感じで弾いているのがとてもいいなあ、と思いましたよ。

宮下 ありがとうございます。

岡田 実技は私と石井克典先生で受けもつてているのですが、入試の時に比べて随分ピアノが鳴るようになり、音に主張が出てきたと思います。入学してからどんどん伸びていった印象ですね。

宮下 それはもちろん、英語を学びながら実技も充実しているところです。どちらも私にとって重要なものです。

野島 ピアノはいつ頃習いはじめましたか?

宮下 6歳の時に浜松の音楽教室で習いはじめ、アメリカではテネシー大学のドクターにずっと教わっていました。数千人の観客の前で演奏した

かる人に聞いたりして、お互いに助け合っています。本当に仲がよくて「みんなで一緒にがんばっていこう」という意識が強いのです。まじめな人が多いし、それぞれ強みをもつているので、一緒にいると刺激になります。

野島 それもMLAの狙いのひとつです。音大は実技レベルや目標の同じ人たちが集まりがちですが、さまざまなレベル、価値観の学生が集まって刺激し合うと、世界の広さが見えてきて、人間の幅も広がります。

宮下 外国人の先生が「日本人はなんでもジャンケンで決めたがる。それは、自分で責任をとりたくないから」と指摘されたのは興味深かったです。文化や気質の違いをあらためて知ることで、自分の価値観も広がる気がします。

岡田 これからMLAを目指す人たちにアドバイスはありますか？

宮下 英語と実技のバランスをとるのが最初は難しいかもしれませんのが、工夫してがんばれば大丈夫だと

岡田 M.L.Aにはいろんな学生に集まつてもらいたいので、英語も実技も入試レベルに幅をもたせています。留学生も受け入れ、日本語を勉強中という学生もいます。学生たちを見ていると、英語や教養の授業はみんなで助け合い、実技はそれぞれががんばっているという感じですね。

野島 ところで、宮下さんにとって将来の夢はなんですか？

宮下 世界中の人たちが笑顔で仲良くなるように。そのため音楽をとおして貢献できる人材になりたいと思っています。奏者と聴衆がお互いに高め合える環境が理想的ですね。

野島 そうですね。英語も音楽も関わる時間が長いほど上達し、そこから広がりが豊かになります。楽器と自分との対話をとおして、正解を追い求める習慣づけてほしいと思います。

ちに自分に合っているのではないか」と思いました。

私は日常会話には困りませんが、より専門的なことや細かいニュアンスを伝えるのはまだまだな

TCM共演対談

東京音楽大学創立111周年
名川・岡村法律事務所創立101周年
記念特別演奏会で共演

2018年度卒業生

吉永 優香さん

千葉県立東葛飾高等学校卒業。2017年、第34回日本管打楽器コンクールバーカッション部門で第1位。2019年3月に本学を卒業し、大学院科目等履修生としてレッスンを継続。111周年記念シンフォニーオーケストラ定期演奏会に出演。



第一線で活躍する先生や先輩と
共演できる貴重なチャンスも



打楽器
久保 昌一 兼任教授

学生のうちから現場を知り
将来の目標を明確にできる

久保 111周年記念演奏会での演奏はどうでしたか？
吉永 プロとして活躍している先生方の音を間近で聞きながら、学生である自分がその隣で共演できることが夢みたいたいです。うれしく感じるとともに、将来の目標をあらためて確認できました。

久保 僕も大学2年生の時、読売日本交響楽団のエキストラに呼んでもらい、菅原淳先生の演奏のすごさを実感し、がんばって立派な音楽家になろうと決意したんです。

吉永 努力を続けばさまざまな可能性が広がるし、それをサポートしてもらえるのは大きいですね。また、校内でのコンクールもあれば、国内外のコンクールに出場するための支援もしてもらえるなど、いろいろな機会に恵まれていると感じます。

久保 僕たちが学生だった頃よりも、今は学生全体のレベルが上がっていますね。音楽業界を担う数多くの素晴らしい卒業生を輩出していることも、皆さんの励みになっているかと思います。

吉永 個人練習室も充実していますが、予約なしでみんなと一緒に練習できる大きな部屋があるのもよかったです。そこではほかの人の練習を聴いたり、先輩がアドバイスをくれたりして刺激になりました。

久保 新キャンパスには新しい打楽



器の練習室が複数でき、これまでより遅い時間まで練習できるようになります。NHKホールへも近いですからぜひN響の演奏も聴きに来てほしいですね。

吉永 将来は私もオーケストラに入つて、周りから信頼してもらえるようになります。NHKホールへも近いです

からぜひN響の演奏も聴きに来てほしいですね。

吉永 将来は私もオーケストラに入つて、周りから信頼してもらえるようになります。NHKホールへも近いです

からぜひN響の演奏も聴きに来てほしいですね。

吉永 皆さんには人生が変わることの感動を味わい、それを原動力にしてくれたように、聴いてくれるお客様に音楽の魅力を伝えたいです。

久保 皆さんには人生が変わることの感動を味わい、それを原動力にしてくれたように、聴いてくれるお客様に音楽の魅力を伝えたいです。

吉永 大学での4年間は大変なこと

もありましたが、自分なりに成長できました。この大学を選んで本当によかったです。

久保 これからも初心を忘れずに

「習うのではなく、
自分で考え、発見していくこと」



川瀬 先生との出会いは入試の実技試験の時で、第一印象は「怖そう」でした。今では師匠は自分の「ものさし」と思っています。

広上 僕らの時代と比べて今の学生たちは過保護というくらいに恵まれています。自分の頭で考えるということが一番大事なことです。

川瀬 1年生の時は卒業した先輩たちのレッスンを見学させてもらいました。直接先生から教えてもらいました。一番の思い出は2年生の頭に汗だくになって指揮棒を振つ

川瀬 先生に何気なく言われた言葉がいまだに物事を判断する「ものさし」になっていて、今でも迷った時はピントをいたいでいます。相手を尊重することなど、シンプルなことですが、音楽だけやればいいということでは決してないと気づかされました。

広上 「自分で考えてきたな」と目つきですぐにわかりました。指揮者は習うのではなく、自分で発見していくしかないんです。

川瀬 先生に何気なく言われた言葉がいまだに物事を判断する「ものさし」になっていて、今でも迷った時はピントをいたいでいます。相手

を尊重することなど、シンプルなこ

とですが、音楽だけやればいいとい

うことでは決してないと気づかされ

た4年間でした。

自分で考えることを
学んだ音大時代

2007年度卒業生
川瀬 賢太郎さん

八王子高等学校卒業。広上淳一、チョン・ミョンファンら各氏に師事。2006年、第14回東京国際音楽コンクール<指揮>において1位なしの2位(最高位)に入賞。2016年第26回出光音楽賞受賞。平成30年度(第73回)文化庁芸術祭音楽部門新人賞受賞。

指揮
広上 淳一教授

たら、突然「君は何になりたいの？」と聞かれたことです。そこから僕の苦悶の日々がはじまりました。広上「ヒントを与えるべきではありません。自分で考えない人はつぶれます。表面的なことではなく、自分という人間をとことん見つめ直すことで物事の本質を捉えていくほしい」。

川瀬 先生は「ダメ」とか「いい」とかは指摘されても、具体的に「どうすればよくなる」とはおっしゃらないんです。「自分で考えろ」と。しかし、自分なりに考えてもなかなか思いつきません。転機が訪れたのは4年生の春休み。自分をとことん見つめ直してみようと、何が欠点で何が強みか、自問自答を繰り返しました。その結果、休み明けにハイドンの曲を振つたら、先生から「変わったな」と言われ、東京国際音楽コンクールへの参加を勧められました。それで一気にエネルギーが湧き、デビューに結びついたんです。

広上 「自分で考えてきたな」と目つきですぐにわかりました。指揮者は習うのではなく、自分で発見していくしかないんです。

川瀬 先生に何気なく言われた言葉がいまだに物事を判断する「ものさし」になっていて、今でも迷った時はピントをいたいでいます。相手

を尊重することなど、シンプルなこ

とですが、音楽だけやればいいとい

うことでは決してないと気づかされ

た4年間でした。

